

たいよう新聞

489号

10月10日発行

ベトナムで技術セミナーを開催！

産学官民連携で挑む

しゅんせつ

浚渫土改良



ベトナムが抱える代替材料へのニーズに応えるため、当社の管路システムを用いた、浚渫土の改良技術を披露する技術セミナーを、ハノイ建設大学第2キャンパスにて開催しました。産学官民から74名が参加した本セミナーで、現地の心を動かした独自の現場型アプローチとは。言葉の壁を越えて得られた確かな手応えと、ベトナムでの事業拡大を見据えた次なる挑戦に迫ります。



専務取締役施工本部長 兼
神守研究開発センター長

つちや あつお
土屋 敦雄さん



セミナー開催の背景

浚渫土の有効活用と代替材料へのニーズ

運河や川の底を掘り下げた際に出る土を「浚渫（しゅんせつ）土」と呼びます。現在、ベトナムではこの浚渫土が年間2,000万～3,000万㎡も発生しています。その一方で、建設に必要な砂は不足しており、行政などから代替材料を求める声が上がっていました。当社の管路システムを用いた浚渫土改良技術は、まさにこのニーズに合致するものでした。また、当社はハノイ建設大学と協力し、別地域に建設中の同大学第2キャンパス内で、浚渫土改良と盛土施工の実証施工を行ってきた実績があります。さらに、同大学は本技術の学術的評価も行っています。実証現場で直接技術を確認できる環境が整っていたため、行政や企業が一堂に会する場として最適だと考え、今回のセミナー開催に至りました。



六鹿社長による会社紹介



セミナーの概要と特徴

座学と現場見学を融合させた実証型

今回のセミナーには、大学関係者や各省庁、JICA、現地の民間企業から74名が参加し、産学官民が連携する一大イベントとなりました。前半は校舎にて座学を実施。副学長の挨拶、JICA担当者による事業説明、当社社長の会社紹介に続き、私が管路システムの技術紹介を行うという流れでした。

その後、同大学の教授から実証施工の効果を説明していただき、質疑応答では法制度やコスト面などについて活発な意見交換を行いました。後半は現場見学を実施し、稼働する機械や施工状況を間近で見させていただきました。今回のセミナーの大きな特徴は、実際の施工機材や試験盛土を直接見て確認できる「現場型」にした点です。文章や写真だけでは伝わらない技術の強みを体感していただけたと感じています。

収穫と手応え

将来を見据えた 具体的なプロジェクト相談

最大の収穫は、将来の大型プロジェクトに向けた具体的な案件の相談をいただいたことです。「この現場に適用できるか」といった技術的な疑問から、現地での設備製造・販売の可能性、環境への影響まで、行政や企業から具体的な関心が寄せられました。通訳を介したやり取りだったため、細かいニュアンスを伝えることにはひと苦労。それでも、現場で実際の機械の動きを見てもらうことが、言葉の壁を越えた信頼関係の構築に繋がったと実感しています。

さらに、大学の教授から本技術の有効性が学術的に発表されたことも大きな前進でした。今後は当社と大学が連携し、ベトナム独自の施工基準を作る方向で話が進んでいます。事業拡大への確かな手応えを感じています。



ハノイ建設大学K教授の発表



今後 取り組むべき課題

法整備と現地の土質への対応

今回の実証試験とセミナーを通して、今後の課題も明確になりました。1つ目は法整備。ベトナムには浚渫土を処理・再利用するための公的な施工基準が整備されていないため、ガイドラインや法的枠組みの構築に向けた行政との協議が不可欠です。2つ目は、技術的な課題である土質のばらつきへの対応です。現地の浚渫土にはゴミが多く混ざっているため、日本のようにはいきません。事前のゴミ除去や現地の土質に合わせた試験・配合設計が求められますが、この技術的ハードルを越えることが、同国での圧倒的な競争優位性に繋がるはずです。



今後の展望

他都市への展開

ダナンやホーチミンなど他の都市でも、対象者を変えて同内容の追加セミナーを計画。これらの地域には実証現場がないため、パネルやビデオを活用して技術の周知を図る予定です。現在、ベトナムにある管路システムの機材は1台ですが、事業が本格化すれば複数台を製造して導入したり、現地企業と協力体制を築いたりすることも考えています。

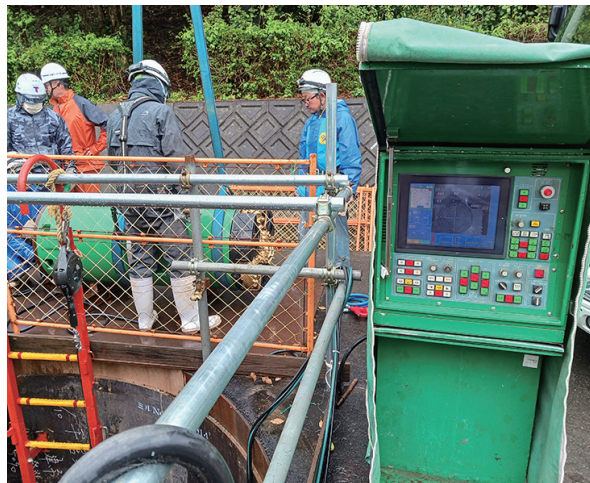
最前線レポート

NA4-1中新田東名添東一号線ほか基幹管路更新工事(第2工区)

大洋基礎工業が担当したさまざまな現場を紹介するこの企画。今回は静岡県焼津市で行われた基幹管路更新工事です。地下水が多く非常に硬い地盤という難度の高い環境下で、どのような工夫があったのでしょうか。

現場概要

現場名	NA4-1中新田東名添東一号線ほか 基幹管路更新工事(第2工区)
施工期間	2026年3月9日～2026年6月29日
場所	静岡県焼津市中新田
発注者	焼津市上下水道部水道工務課
元請	本橋建設株式会社
現場体制	大洋基礎工業2名、協力会社11名
施工目的	400mmの新設水道管を布設するため、600mmの鋼管を用いて 地下を掘り進める工事



静岡支店 工務部 課長

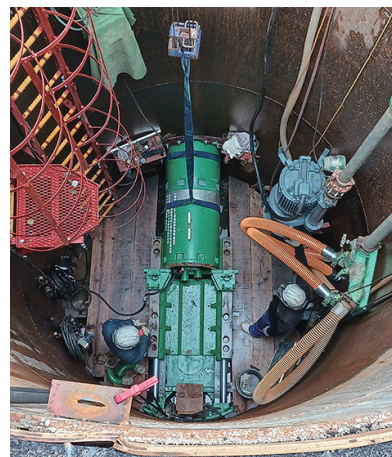
Hさん



現場の特徴

水が多く硬い地盤での長距離推進工事

新設水道管を布設するための推進工事を行いました。掘削距離は84mと142mの2か所で、特に142mは長距離の施工。水を通しやすい性質(透水系数が高い)ゆえに地下水が豊富で、なおかつ地盤の硬さを示すN値も高く、非常に硬い地盤でした。地中の管を長距離にわたってジャッキで押し込む難工事だったため、先端に泥水を送って水圧で地盤を安定させながら掘り進める「泥水式推進工法」を採用。泥水の比重や粘性を毎回測定しながら慎重に施工を進めました。



苦労した点と乗り越え方

泥水管理とマシン改良による難局突破

泥水式推進工法の一つである「ロックマンエース工法」で施工しましたが、比重の重い泥水を送るため、ポンプを計3台体制に増やし、能力を上げて対応しました。また、先に短い84mの箇所を施工して地山の特徴を把握。その上で、142mの施工に向けてマシンの面板の改良を行いました。土の硬さや粘性を見ながら土砂が入る開口率を調整し、作業を行う協力会社とも相談を重ねて最適な形を決定し、難局を乗り越えることができました。



現場を振り返って

多様な視点を取り入れた意見交換の重要性

難度の高い現場だからこそ、大人数で多角的な意見を出し合い施工することが大切だと感じました。現場には当社の新入社員や専門分野の異なる協力会社の方々も多数参加しており、特に、実際にマシンを操作する担当者の現場感覚を踏まえた意見は、大きな助けとなりました。社内とは異なる視点から検討を行えた経験を、今後の業務にも大いに活かしてまいります。



世代間の融合は「日々の対話」から

現在、建設業界全体で人材・後継者不足が課題となっています。当社にも毎年若い社員が入社しますが、いかに技術を伝承していくかが大きなテーマ。時代が移り変わる中、若い世代に合わせた指導の工夫が求められています。

2026年3月からのベトナム訪問で、国籍や文化以上に「コミュニケーション」の重要性を痛感しました。自分の意図が正確に伝わらないもどかしさ。この経験は、世代の違う社員同士の関わりにも通じると気づいたのです。認識のズレは日常的に起こるため、日々の対話を重んじ、世代間の融合を図ります。

人を育て、自立を促す私の信条

山本五十六氏の「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」この言葉を座右の銘として、これまで後輩たちに接してきました。人を育てる上で大切なのは、やる気を引き出し、自立を促すこと。技術をしっかりと伝承し、若手がやりがいを持って長く働ける環境を作ることが、業界の魅力向上にも繋がると考えています。一方で、若い世代の発想やIT知識など、彼らから教わる部分も少なくありません。相手の関心に寄り添うコミュニケーションで風通しの良い環境を作り、若手のアイデアと私たちの技術を融合させ、会社のさらなる発展へと繋げます。



東京支店 工務部 部長

Mさん

声援

令和8年度全国労働衛生週間 社長メッセージ

スローガン

「ひとりひとりが貴重な人材 心も体も健やかに みんな生き生き健康職場」

社員の皆さんへ

今年も全国労働衛生週間を迎えます。今年度のスローガン「ひとりひとりが貴重な人材 心も体も健やかに みんな生き生き健康職場」は、当社の事業に携わるすべての社員が、会社にとってかけがえのない存在であることを改めて示しています。皆さんの技術と経験、そして健康によって会社は成り立っています。そのため、心身の健康を守ることは、企業の維持・成長に直結する最重要課題です。今年度、当社は次の3点を重点的に取り組みます。

①健康の確保

当社は健康経営優良法人の認定を受けております。認定要件である「健康課題の把握」で定期健診受診率100%の項目がありますが、法令で義務付けられているため、受診率100%を達成しています。しかし有所見に対する再検査率は向上しているものの100%に届いておりません。有所見の程度に差があるとは思いますが、再検査を受診して「健康の確保」をお願いします。

②メンタルヘルス

今年度もストレスチェックを10月1日～21日に全社員に実施します。高ストレス者の中で希望の方には産業医の面談も行いますので活用をお願いします。心の不調は誰にでも起こり得

ます。新入社員にはメンター制度、社員同士がコミュニケーションできる機会の提供、産業医の活用など、相談しやすい環境づくりを進め、働きやすい職場を作っていきましょう。

③化学物質管理の高度化への対応

法改正により化学物質管理は大きく変わりました。当社の事業でも化学物質を多く使用します。「特定化学物質作業主任者」の資格を取得しましょう。現場パトロールで確認したところ、SDSの掲示は行われていますが内容の確認・周知には改善の余地があると感じています。「知らないまま使う」ことを防ぎ、安全な作業環境を提供しましょう。

労働衛生週間は特別な期間というだけでなく、「日々の安全・健康意識を高めるための大切な節目」です。社員の皆さんが心身ともに健やかで、安心して働ける職場をつくること、会社の最大の使命です。

今年も、互いに声を掛け合い、気づき合い、改善し続ける週間にしましょう。より安全で生き生きと働ける太洋基礎工業を築いていきましょう。

太洋基礎工業株式会社
代表取締役社長 六鹿敏也